

年次報告書作成に係る基本的考え方

1. 年次報告書作成の目的

- (1) 各年度において実施された関係行政機関による調査、事業の内容についてとりまとめ、行政機関において情報共有するとともに、科学委員会に報告し、助言を得る。
- (2) 「知床世界自然遺産地域管理計画」の実施状況の点検を行う。
- (3) 知床世界自然遺産地域の自然環境や社会環境の状況、および関係行政機関等による取組状況を分かりやすくとりまとめ、普及啓発に活用する。
- (4) 一部は英訳し、世界遺産委員会等に対し知床における取組を広くアピールする。

2. 年次報告書の構成

年次報告書は本編と資料編に分割し、本編は1年毎、資料編は5年毎程度の更新とする。本編、資料編ともに知床データセンターに掲載し、広く一般に公開する。資料編は事務局にて更新作業を実施し、科学委員会の議論の対象とはしない。

(1) 本編の構成

知床世界自然遺産地域の主な動き

知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況

知床世界自然遺産地域の現況

- 1. 知床世界自然遺産地域の利用状況
- 2. 知床地域におけるハード事業の実施状況
- 3. 知床地域の保全管理（ソフト事業）の状況
- 4. 各種会議の開催状況

(2) 資料編の構成

気候に関するデータ（降水量、気温、風速、風向、日照時間、雪）

社会環境に関するデータ（土地利用・土地所有、人口、産業、観光、交通アクセス・交通量、保護地域、人文歴史）

各種一覧（関係法令・計画等、希少生物、年表、普及啓発資料、拠点施設）

3. 年次報告書作成の基本的スケジュール

H 2 1 年度年次報告書（本編）の作成を例に、基本的なスケジュールを以下に示す。

H 2 2 年 4 月～第 1 回科学委員会（6～7 月）まで

事務局において、H 2 1 年度の事業、調査の実施結果等のとりまとめ。

第 1 回科学委員会

H 2 1 年度年次報告書（案）について提示。科学委員会における助言（年次報告書の記載内容および行政機関の実施調査・事業内容に関して）。

M L の活用等により、各 W G および A P から助言をいただく。

第 1 回科学委員会終了後

助言を受けて、事務局において H 2 1 年度年次報告書を確定。